

# 能満寺

東光寺の前を通り、さらに東へ進むと、能満寺があります。

能満寺は、鎌倉時代の創立とされています。

その由来は、内海新四郎光善というこの地の漁師が海中から虚空蔵菩薩を拾い上げ、これを祀ったと伝えられています。



# 笠程稲荷神社

良泉寺を左に折れ曲り、京浜急行のガード下をくぐり抜けると、笠程稲荷神社です。

この神社の名前には、次のような由来があります。笠をかぶった人がこの前を通ると、不思議に笠が脱げ落ちたそうです。そのため笠脱稲荷と呼ばれるようになり、その後、笠脱を笠程に改めたとわれています。



# 良泉寺

能満寺を後に東へ向かうと、良泉寺の塀に突きあたります。

この寺には、次のような話が伝わっています。開港当時、幕府から外国人宿舎にするように命ぜられた住職は、屋根をはがし、修理中との口実でこれを断ったといわれています。



# 長延寺跡・土居跡

京浜急行・神奈川新町駅の近くに、神奈川通東公園があります。ここが「歴史の道」の終点です。

昭和四十年(一九六五)に移転するまで、ここに長延寺が建っていました。この寺は、開港当時、オランダ領事館に充てられました。

また、このあたりは、神奈川宿への江戸からの入口にあたります。

下の図は、神奈川本陣・石井家に伝わった土居の絵図です。街道両脇に土盛りがされ、その高さは約二・五メートル。その上には竹矢来が設けられていました。



「神奈川宿入口土居絵図」神奈川県立公文書館所蔵

